



春の兆しの愛媛県立中央病院 写真提供：K.O

地域連携室便り
愛媛県立中央病院
地域医療連携室
No.34 (2023年3月)
 直通TEL **089-987-6270 (前方連携)**
089-947-1165 (後方連携)
 FAX **089-987-6271**

萌芽の候、皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、この度 地域連携室便り No. 34 3月 を刊行いたしました。気軽に読んでいただけるようにと
考えておりますが、皆様方からのご意見をいただければ幸いです。聞きたいこと・知りたいこと等、ぜひ
お知らせください。この機会にぜひメール登録をよろしく願いいたします。

今回の内容

- ① 皆様お世話になりました・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 平野奈緒美
- ② 退職のご挨拶 ちょっと考えただけでも7つの幸運・・・・・・・・・・・・・・・・ 菅政治
 退職のご挨拶 多くの出会いが創った過去・現在そして未来・・・・・・・・ 原田雅光
- ③ 消化器外科診療科紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 大谷広美
- ④ 第123回医療連携懇話会について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 森高智典
- ⑤ 医療安全コラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 森山昭子
- ⑥ 地域医療連携室からのお知らせ～登録お申し込み方法について～

皆様お世話になりました

地域医療連携室 看護師 平野 奈緒美

この度、3月で定年退職を迎えることとなりました。

当院へ入職し、消化器外科病棟、NICU病棟の経験を経て、地域医療連携室の担当となり、5年が
過ぎようとしています。病棟では急性期・高度医療を提供する実践現場で奮闘しておりましたが、
短期で元の暮らしに戻れる状況ばかりではありませんでした。地域医療連携室へ異動し、低下した
機能や障害のリハビリ、積極的治療から緩和ケアへの移行など、意向に沿った療養場所でその人
らしく過ごせるために、地域の医療機関や福祉・介護の様々な支援の必要性を実感しました。
患者・家族や現場の想いを地域へ繋げる立場となり、そしてそれを受け取ってご尽力いただいた
皆様の支援の温かさに触れ、感謝の気持ちでいっぱいです。これまでと同様にお力添えをいただき
ますよう、今後ともよろしく願いいたします。

今後の皆さまのご活躍とご健康を心よりお祈り申し上げ
ます。



② 退職のご挨拶 ちょっと考えただけでも7つの幸運

院長 菅 政治

愛媛県立中央病院で先生方にお世話になりながら長く泌尿器科診療を続けさせていただきましたが、この2023年3月に退職となりますので一言ご挨拶をさせていただきます。

私は1982年に徳島大学を卒業し、泌尿器科学教室に入局いたしました。入局時に愛媛出身で、将来地元に戻りたいと伝えておりましたので、医局の配慮もあり関連病院の愛媛県立中央病院に1987年から4年間、一度徳島大学に戻った後1996年から27年間の通算31年間当院で勤務させていただきました。1987年の泌尿器科は4名で上司の中島幹夫先生、米田文男先生、辻村玄弘先生は皆チャーミングな人格者で医師としての心構えや生き方を教えていただきました（幸運1）。当時はICUでパラコートなどの薬物中毒治療や多臓器不全患者の持続血液ろ過（透析）の回路閉塞も医師が対応していたので夜間の呼び出しも多く大変だったのも遠い昔です。丁度、1990年代に大学に帰り、腹腔鏡手術に早期に触れられたのも幸いでした（幸運2）。低侵襲というものの新規技術の発展段階は術式や器具の開発に多くの苦労があり、多くの施設で患者さんに負担をかけることもありながら術者の技術習得がなされたのも事実でないか思います。当院は1997年に泌尿器腹腔鏡手術を開始しましたが、導入前に山師定先生と二人で入念に準備し、開始後も安定するまでエキスパートの先生方にバックアップをお願いする安全策をとり進めました。山師先生の几帳面で抜かりのない援助に助けられ、幸い、大きなトラブルもなく、いろいろな泌尿器腹腔鏡手術を早期に愛媛に導入できたと思っています（幸運3）。2002年某大学病院の腹腔鏡下前立腺全摘除術1例目で術中出血の制御不良を原因に患者さんが亡くられる医療事故が起こり社会的にも問題となりました。これを契機に学会主導で術者の技量を担保するため泌尿器腹腔鏡技術認定制度が発足いたしました。合否を評価する審査員も無記名、無編集の手術ビデオを提出し技術を基準に選出され、審査員を中心に術式別に安全を考慮した標準的な手技、危険な手技の洗い出しが行われ、泌尿器腹腔鏡手術の安全を担保した普及に学会が積極的に係わりました。その後、技術認定制度は他の外科系学会にも広がり、泌尿器科ではロボット支援手術にもその範囲を広げつつあり、若手泌尿器科医は専門医とは別に取得を目指す資格の一つになっています。私も初期から審査員として係わり、それまであまり見ることのなかった他大学の熟練した術者の手術を見る機会を得、自分も大変勉強になり、当院の手術も磨かれていったと思います（幸運4）。

また当院は2012年に腹腔鏡手術支援ロボットda Vinciを県内で最初に導入していただきました。高額医療機器で当時は保険適応が前立腺がんのみのため導入に多くの医療機関が採算性や発展性を考え躊躇したと聞いています。丁度、病院の建て替え時期で、新規機器が導入しやすい時期であり、また泌尿器科の手術に対する取り組みを病院が評価いただいたことも早期導入につながったと思っています（幸運5）。導入から10年経ち現在は消化器外科、胸部外科、産婦人科など適応が広がり当院でも年間約300例となり、泌尿器科に至ってはほとんどの腹腔鏡手術がロボット支援手術に置き換わり、時代の進歩の速さを感じています。また、2003年に大岡啓二先生が当院に来られて本格的に始まった腎移植も岡本賢二郎先生に受け継がれ約360例となりました。新しい内視鏡手術や腎移植を若いうちから指導してもらえる施設として愛媛大学、徳島大学の若手泌尿器科医が当院での研修を希望し、毎年来てくれているのはうれしいことです（幸運6）。

私の泌尿器科医としてキャリアはいろいろな幸運に恵まれ、また何より当院で一緒に仕事をした多くの職員の皆様にサポートいただいて勤めてこられました（幸運7）。地域の先生方と当院職員の皆様に心より御礼を申し上げますとともに、今後とも愛媛県立中央病院をよろしくお願い申し上げます。



② 退職のご挨拶 多くの出会いが創った過去・現在そして未来

副院長（改善推進本部長） 原田 雅光

この度、愛媛県立中央病院を定年退職することとなりました。地域連携や県立病院群の皆様には色々と長い間お世話になりました。この機会に本誌面をお借りして、表題に沿ってお礼方々ご挨拶を申し上げます。

私は、現菅院長、定本センター長、前田病理部長と同期で、S57年徳島大学を卒業し旧第1外科に入局しました。最初の当院勤務は卒後5年目からの2年間で、当時榊原副院長、小笠原血管外科部長など同門の先生方を始め、田中院長、重松先生、木村先生、玉木先生、中村先生など他大学出身の多くの先生方との出会いがありました。進行胃癌の全摘やAAAの緊急手術など、現在の当院のシステムでは経験できない現場（術者）感がありました。副院長からの指導で、手術を始め症例のまとめ方や学会報告・誌上発表など、その後の私の仕事の原型ができたように思います。

二度目の赴任は卒後19年目（2001年）でした。大学での仕事の目途がつき、“残り地元で”と思っていたところのタイミングでした。当初は、西浦先生や河崎先生と『肝臓移植』ができたらいいな、と本気で思っておりました。慣れる間もなく、県立今治病院勤務を伝えられ、6年間地域医療・外科診療に務めました。当時は、低侵襲（腹腔鏡下）手術が消化器外科領域でも求められはじめ、八木君（当院部長）と一緒に積極的に胃癌・大腸癌などの鏡視下手術を進めました。肝胆膵疾患も近隣の先生方からご紹介いただき、90例余り癌の術者をさせていただきました。前半の3年間は、元副院長の河崎先生の力強いサポートを得ました。これらの仕事で、「肝胆膵高度技能指導医」資格を制度2年目で取得することができました。また、前院長の藤田学先生とは同学年でもあり、病院機能評価受審や診療は元より趣味のゴルフ仲間として今でも懇意にいただいています。

2009年に中央に戻り、肝胆膵外科臨床をさらに展開するべく手術、学会・誌上発表、後進の育成などに注力しました。2011年の悲しい医療事故発生後は、県主導の『改善推進本部』を拝命し、元梶原院長、高石センター長（副院長）との仕事が始まりました。縁あって、麻生飯塚病院の麻生泰会長や安藤廣美先生（現、医療の改善全国推進協議会理事長）、さらにはシアトルVirginia Mason Medical Center CEOのGary Kaplan先生らともお付き合いをさせていただき、国際的な医療界での改善活動の道へと展開していきました。

一方、西村前院長の指導の下、当院が松山救急輪番制からバックアップ制に移行した後、初期研修医のマッチングが激減してしまいました。山岡先生、道堯先生の後を受けて、2017年から臨床研修センター長を拝命し、新たな仕事が意欲を掻き立ててくれました。愛媛大学の高田清式先生や十全病院の古林先生らとAll Ehimeを掲げて学生のリクルートにも励みました。

この時期には、前西村院長主導の「平均在院日数の低減」や「診療の質向上」が叫ばれ、全国DPCランキング(Ⅱ群)でのTop20入り、病院機能評価・救急病院認定、医療の改善活動・全国フォーラムin 松山の開催、臨床研修研究会の主催などが続きました。手前味噌になりますが、国際協力機構(JICA)東京からのAsia, Africa 研修生(当院)派遣や、『5S、カイゼン、TQMサークル活動』の教材用動画作成・提供、そして、定年最終年には肝胆膵外科医としての国際学会発表(肝内胆管細胞癌手術20年間のまとめ)や市民公開講座(CATV: 胆膵がんの現場)、国内主要改善関係会のシンポジスト、卒後臨床研修病院(JCEP)サーベイヤー、愛媛大学 熊木天児先生らとの指導医講習会実施(Chief Task Force)など、身に余る役割を何とか熟すことができました。

このように、振り返りますと節目・節目で大切な方々との出会いがあり、触発・啓発されながら歩んで参りました。ある意味、中途半端な二刀流であったかもしれませんが、その時々には前向きに「己が脚下を掘れ、そこに泉湧く」で進んできたつもりです。また、これからもそうしたいと思っております。最後になりましたが、地域(医療)連携の皆様や当院の各部署の職員の方々には、改めて深く御礼申し上げます。



③ 消化器外科診療科紹介

消化器外科 主任部長 大谷広美

当院は、がん拠点病院としての役割と、高度救命救急センターとしての役割を持っており、消化器外科もその一翼を担っています。当科では、上部消化管、下部消化管、肝胆膵、3グループの臓器別診療体制をとっており、専門性、標準化を重視しつつ、低侵襲、緻細な鏡視下手術等を施行しており、ロボット支援手術にも積極的に取り組んでいます。

2021年の総手術件数は1422例で、特に2021年はCOVID-19関連の手術枠制限の影響を大きく受けました。これは地域の基幹病院としての責務を果たすため、緊急手術、高難度ハイリスク手術遂行機能の維持に注力したためで、もともと高かった予定手術以外の緊急症例は500例(35.3%)と、2020年の405例(25.5%)よりさらに増加し、地域のニーズに答えていることが示されています。

同時に、低侵襲、整容性をも考慮した鏡視下手術を積極的に導入し、その割合は非常に高い水準を維持しています。良性疾患にはReduced port surgeryにて特に整容性を重視し、傷が目立たない手術を心掛けています。胃癌、大腸癌、膵腫瘍においてはロボット支援手術を行い、精緻な手術を心掛けています。

厚生労働省の令和2年度DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」から、主要疾患の症例数と在院日数につき、全国82大学病院も含んだランキングで当院がベスト10であったものを挙げると、症例数では、虫垂切除術(膿瘍有り)が2位、腹腔鏡下胆嚢摘出術(胆嚢炎)が4位、腹腔鏡下結腸切除術が7位でした。在院日数では、肝癌(区域切除まで)、肝癌(2区域以上)、胆管癌、胆嚢癌(PD、肝切)の3部門で全国トップの成績で、膵癌(PD、DP)と上部消化管穿孔が3位と、全国有数の成績で、合併症なく順調に退院される患者さんが多いことが示されています。

諸先生方よりたくさん症例をご紹介いただき、このような良好な成績を残すことができました。近年では手術制限の影響にて、特に良性疾患の手術にてご迷惑をおかけしておりますが、今後とも信頼され選んでいただける消化器外科となるため、更なるレベルアップに努めてまいります。

消化器外科



④第123回医療連携懇話会について

がん治療センター長 森高 智典

2023年2月8日、hybrid 方式にて第123回医療連携懇話会が開催されました。

今回、当院へ長年にわたり多大な貢献をされた3名の先生から退職記念講演をしていただきました。

1番目は小児医療センター長・石田也寸志先生がご講演されました。タイトルは「小児がんとともに」—40年間の小児臨床を振り返って—でした。卒業まもなく担当された小児がん患者さんとの出会いから小児がん治療を専門領域に決められたこと、St. Jude Children's Research Hospitalへの留学や聖路加国際病院勤務を通じてがん治療中のQOLも大切であるが治療終了後の合併症のない生活がもっと大切ではないかとの視点から長期フォローアップや2次がんに対する研究・研修にご尽力されたことを伺いました。

2番目は病理診断部長・前田智治先生がご講演されました。タイトルは「愛媛県立中央病院・病理 30年のあゆみ」でした。病理の講義が良く理解でき組織像に感動されたことから病理医になられたこと、当院へ赴任時にはPCもなく手書きの台帳、報告書であったこと、その後にはご自身と古谷先生とで病理業務支援システムを開発されたこと、電顕診断、遠隔病理診断、電子カルテ導入、液状化細胞診、自動免疫染色装置設置、がんゲノム医療など時代とともに業務内容が変遷されてきたことを伺いました。また将来の展望、病理医不足の現状についてご講演されました。

3番目は皮膚科・総合診療センター長・定本靖司先生がご講演されました。タイトルは「着任30年退職を迎えて、皮膚科治療の変遷」でした。アトピー性皮膚炎に対するステロイド外用剤、抗ヒスタミン剤や免疫抑制剤など内服薬、生物学的製剤、紫外線療法について症例提示されながらご講演され、有害事象についても教えていただきました。続いて乾癬治療の変遷、悪性黒色腫や自己免疫性水泡症、全身性強皮症に対する治療についてご講演いただきました。

3名の先生におかれましてはご専門領域の診療以外に臨床試験の審査、電子カルテ導入時からの各種委員、情報管理責任者など病院全体に係る多大な業績を残されたことを深く感謝申し上げます。

またWEB参加いただいた先輩医師から「愛媛県立中央病院の歴史を振り返る素晴らしい講演会でした。」と、お言葉をいただきました。

医療安全コラム

臨床のトピックや診療に役立つ情報などお届けします！

⑤「リスクマネジャーのつぶやき」 医療安全管理部 森山 昭子

そこに「信頼」はあるのか？

皆さん、チームで安全な医療に取り組んでいますか？チームの人数は関係ありません。たった二人でもチームです。その中に権威勾配や失敗すれば罰せられる、助けを求められない環境などがあれば、信頼し合える繋がりがあるとは言えません。最近、心理的安全性という言葉をよく耳にするようになったと思います。多様性を認め、何でも語り合えて、失敗をしても責任追及されない、どんな意見にも耳を傾けて無視されたり恥をかかされたりしない状態を意味しています。ただ、そんな関係性の中でも、相手に対する礼儀や配慮は大事であることを忘れてはいけません。愛を持って信頼を築けるといいですね。



⑥地域医療連携室からのお知らせ

今後各種ご案内やお知らせ（医療連携懇話会案内・地域連携室便りなど）はメール配信を推奨させていただきますと考えております。他、県立中央病院ホームページのタイムリーな更新情報も順次配信予定です。メールでの配信を希望される医療機関様につきましては、お手数ですが、下記メールアドレスへ医療機関名を記載し、送信をお願いいたします。



ご意見

ご希望

<件名>メール登録（医療機関名）<本文>・医療機関住所、電話番号

E-Mail : c-renkei@eph.pref.ehime.jp

メールのご登録で...

医療連携懇話会の
動画配信が半年間
ご覧いただけます！



動画配信
3つの
ポイント！



①
お好きな
時間に



②
繰り返し
再生！



③
3密
回避



※ 懇話会動画視聴のみご希望の方もご登録できます。ぜひお申し込みください。

お問い合わせ

：愛媛県立中央病院 地域医療連携室 <担当>大矢根・三好



：TEL : 089-947-1111(代) FAX : 089-987-6271 E-mail : c-renkei@eph.pref.ehime.jp

★次回の医療連携懇話会のお知らせ★

第125回医療連携懇話会

令和5年 4月12日(水) 19:00~20:00

「循環器診療

聴診器診断から小児カテーテル治療まで～」

座長 循環器病センター長 石戸谷 浩

演者 小児科 主任部長 山本 英一

副院長 岡山 英樹

小児科 部長 森谷 友造

<リンク先> 愛媛県立中央病院ホームページ

お申込・詳細はコチラから [Click!](#)



媛さくらネット

地域医療連携ネットワークサービス 媛さくらネット

<現在閲覧できる項目>

閲覧
無料

- ・処方・注射・検体検査・病名
- ・画像（放射線、エコー、生理検査）
- ・循環器動画・放射線画像診断レポート

（2021年11月1日以降の情報）（2022年3月1日以降の情報）

<リンク先> 愛媛県立中央病院ホームページ

お申込・詳細はコチラから [Click!](#)

地域連携室便り

次回4月号(No.35)は
4月中旬頃刊行の予定です。
お楽しみに！



メール登録のご案内

地域医療連携室では各種ご案内やお知らせのメール配信を推奨させていただいております。

登録していただくと…

**限定公開！
医療連携懇話会動画を
ご覧いただけます！**



さらに

**医療連携懇話会のご案内、
地域連携室便りの更新が届きます！**



**ホームページのタイムリーな
更新情報等もお知らせ予定です！**



動画視聴のみ希望される医療機関関係者の方のご登録も受け付けております

【お申し込み方法】

①メールからのお申し込み

申し込み先メールアドレスへ、以下を記載し送信してください。

<件名> メール登録（医療機関名）

<本文> 医療機関住所・電話番号

※動画視聴のみの希望の場合は「動画のみ」と記載をお願いします。

申し込み先メールアドレス : c-renkei@eph.pref.ehime.jp

②この用紙でのお申し込み

以下にご記入をお願いいたします。

<医療機関名> _____

<医療機関住所> _____

<電話番号> _____

※動画視聴のみ希望の場合はチェックをお願いします。 動画のみ希望

<メールアドレス>

登録するメールアドレスのご記入、またはチェックをお願いします。

_____ @ _____

今回の医療連携懇話会に申し込んだメールアドレスを登録します。